

本別町地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

本別町は、北海道十勝東部に位置し、面積は391.99km²、人口約7.5千人の農業が基幹産業の過疎地域であり、人口の減少に伴い、地域内におけるバス利用者は減少傾向にある。しかし、町民や町外からの利用者の足の確保を図るための地域公共交通の整備は、地域における市街地商店街の活性化や通院患者等の移動の確保の面からも、大変重要な課題である。

町国保病院の移転に伴い市街地区と国保病院を結ぶ循環バスは、平成12年4月より運行しており、通院のみならず買物等の生活利便性を図るコミュニティバスとしての機能を向上させ、かつ地域間幹線系統との接続を充実させることにより、町民が安心して暮らせる交通環境を確保することを目標に、運行方法等の工夫により将来にわたり持続可能な公共交通サービスを行うことを目指し、生活交通ネットワークの構築を進めているところである。

生活交通確保維持改善計画の目標

○通院時の利便性を確保しながら、生活面の利便性の向上を図るように運行計画を見直し、コミュニティバスとしての機能を向上させるとともに、将来にわたって町民が安心できる暮らしを支える公共交通を確保する。

○広報活動の充実を図り、着実な利用の定着化とともに、町民が安心して誰もが利用しやすい環境の整備に努め、利用者増を目指した取り組みを行う。

＜具体の目標値＞

◆太陽の丘循環バス利用者数 ⇒平成27年度目標値：年間13,058人(前年度基準と同等)

平成27年度事業概要

- 太陽の丘循環バス
- 南回り 町国保病院～南地区～本別道の駅～町国保病院
 - 北回り 町国保病院～北地区～本別道の駅～町国保病院
 - 直行便 町国保病院～活性化センター～本別道の駅
 - 近道便 町国保病院～活性化センター～本別道の駅～(利用者に応じて)南北地区～町国保病院
 - 南大回り 町国保病院～南地区～本別道の駅～北地区～町国保病院
 - 北大回り 町国保病院～北地区～本別道の駅～南地区～町国保病院

地域公共交通の現況

- ・十勝バス(株)(地域間1路線)
- ・本別浦幌生活維持路線(地域間1路線)
- ・町営バス(太陽の丘循環バス6路線、へき地患者輸送バス5路線、町有バス7路線)
- ・スクールバス(8路線)

本別町地域公共交通会議開催状況

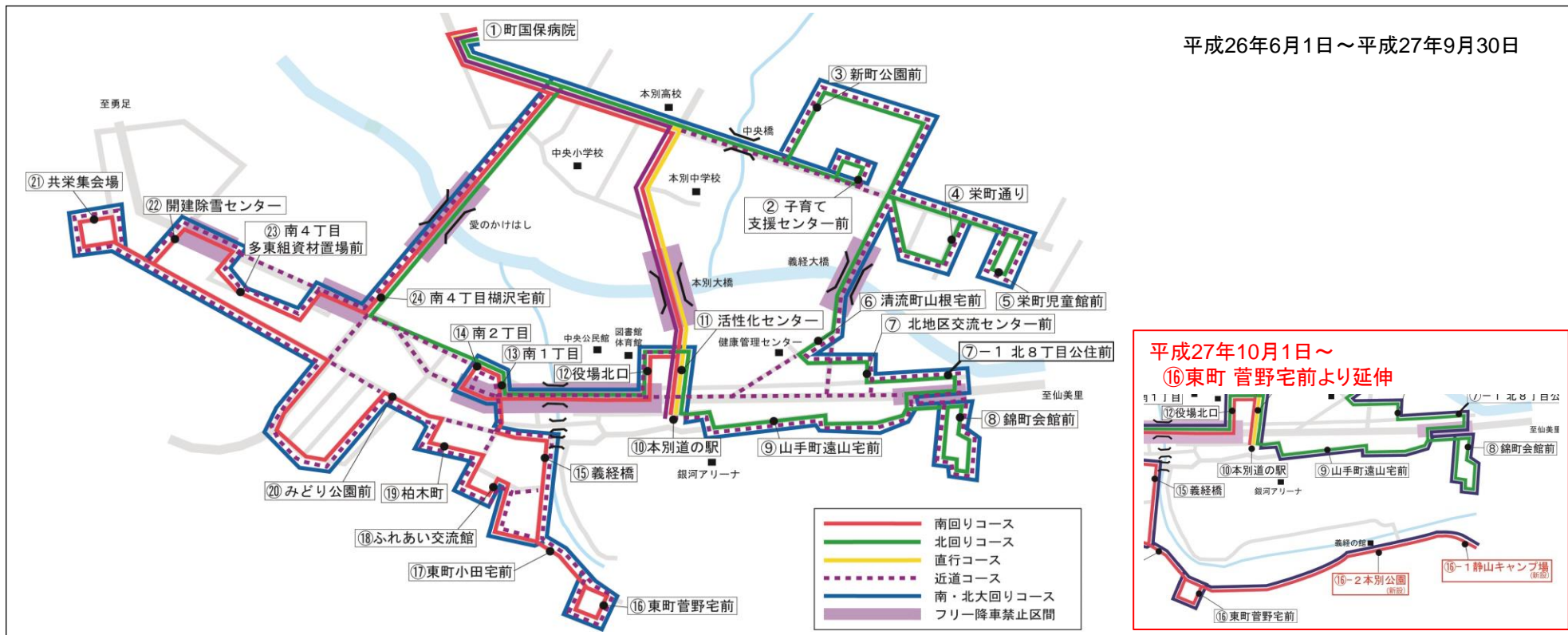
- 平成26年6月26日(主な協議事項)
 - ・太陽の丘循環バス停留所の追加(新設)について
 - ・平成27年度地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について
- 平成26年9月24日(主な協議事項)
 - ・自家用有償旅客運送の更新登録について
- 平成27年1月20日(書面協議)
 - ・地域公共交通確保維持改善事業 事業評価について
- 平成27年6月25日(主な協議事項)
 - ・太陽の丘循環バス運行経路の一部変更等について
 - ・平成28年度地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について
- 平成28年1月12日(書面協議)
 - ・地域公共交通確保維持改善事業 事業評価について

平成27年度事業の実施状況

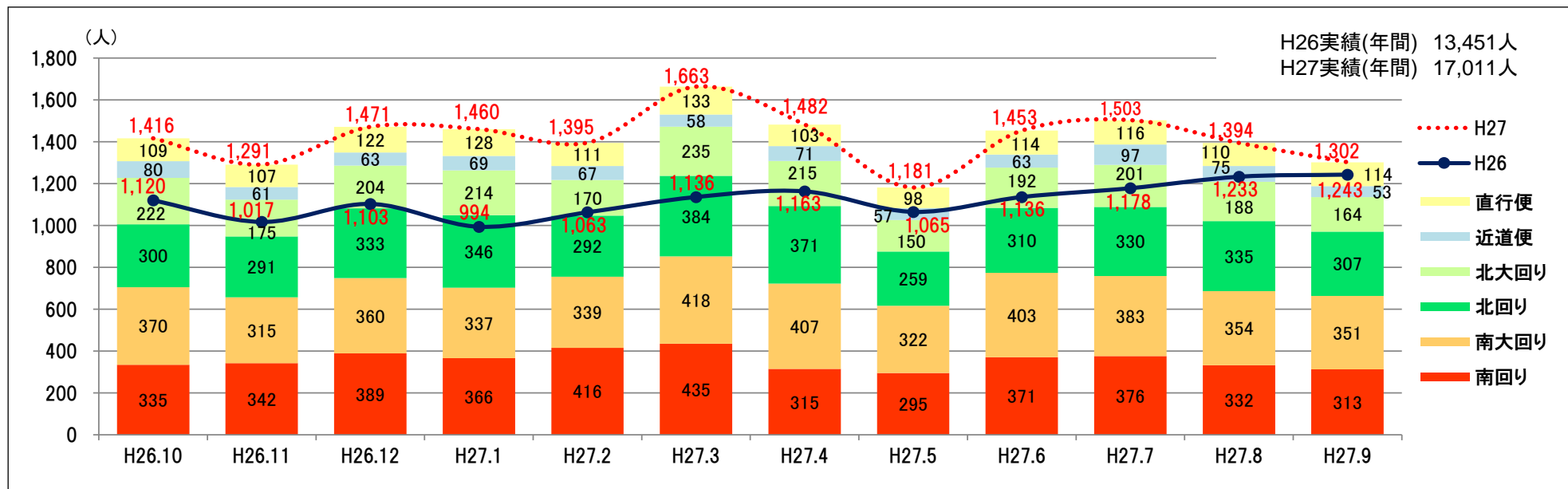
1) プロセス、創意工夫

- ・平成22年度域公共交通活性化・再生総合事業による調査事業において、当循環バスの見直し試験運行を行い、平成24年度より、地域公共交通確保維持事業を活用する。
- ・南回りルートに3か所の停留所を新設(H23.11)。利用者の少ない南、北回りの最終便(第6便)を廃止し、近道便を新設、運行の効率化を図る。(H24.4~)
- ・全路線全便でフリー降車を実施し、利用性の向上を図る。(H24.4~)
- ・運行体制見直しを利用率向上を図るための利用者アンケートを実施(H24.8)
- ・平成24年2月より、シリーズ「支えよう公共交通」として、10回にわたり広報紙に連載し、町内の現状や課題、公共交通の必要性・大切さなどPRする広報活動を展開。
- ・平成25年9月、大幅な運行形態の見直し(①南・北回りコースの2路線を逆回り②南・北コースに大回り便を新設)
- ・主な利用者である国保病院通院者の診療後の待ち時間の短縮及び本別道の駅等での乗り継ぎ時間の短縮を図るため、直行便1便を増便するとともに、運行ダイヤの見直しを行う(H26.4~)
- ・地域生涯学習イベントにおける公共交通コーナーでの利用促進PRの展開(H25~)
- ・午後の時間帯における国保病院や市街地からの帰宅利用者のニーズ対応する運行ダイヤ(直行便・南回り・北回り各1便減便⇒近道便3便増便)の見直しを行う(H27.10~)

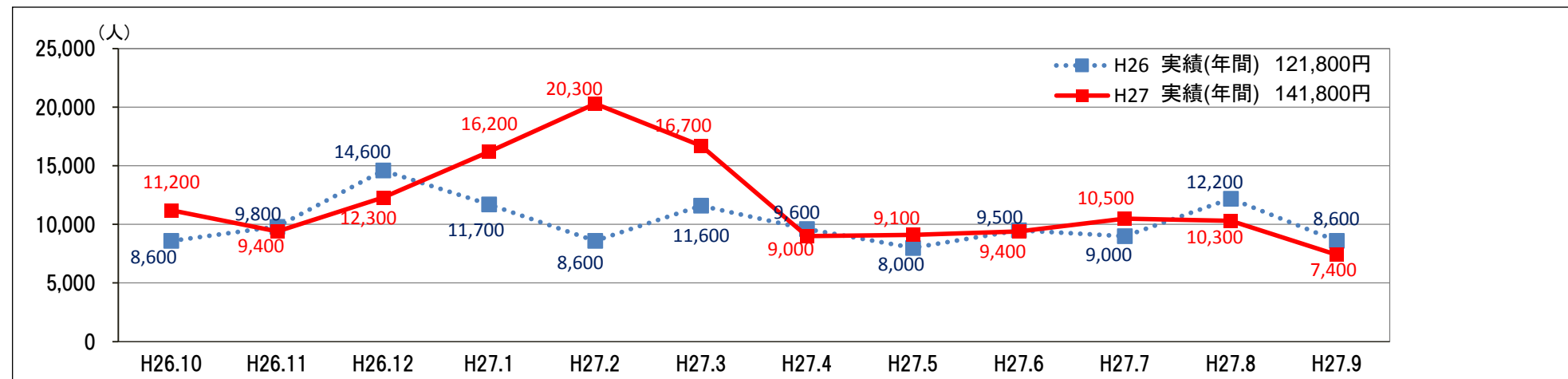
2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

○計画どおり事業は適切に実施されている。

6) 目標・効果達成状況

○平成26年度実績において、前年比9.9%の利用者数減であったが、H26.4の運行ダイヤ見直しとその定着により、平成27年度年間利用者目標13,058人に対し、17,011人であった。

7) 事業の今後の改善点

国保病院や中心市街地からの帰宅利用者のニーズに対応するH27.10以降の運行形態見直し後の検証が必要である。
※直行便1便・南回り1便・北回り1便減便
⇒近道便3便増便

現利用者を中心に、中心市街地へ「ひと」を集める運行ルートが定着してきているが、新規利用者の開拓のため、地域内における多様な連携により、更なる定着と利用者増に向けた取り組みを検討する。

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄